

講義内容の概要

(シラバス)

2018 (H30) 年度

高知短期大学

2018年度開講科目一覽（社会科学科）

| 授 業 科 目 | | 期間 | 単位数 | 専任教員 | 非常勤講師 | | ページ | | |
|--------------|----------|------------|-----|------|-------|--------|------------------|---|----|
| | | | | | 氏名 | 所属等 | | | |
| 教育基礎 専門教育 | 科目 教養 | 文章表現技法 | 前期 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | 1 | |
| | 経済・経営系科目 | 国際経済論Ⅱ | 後期 | 2 | 細居 俊明 | | | | 2 |
| | | 日本経済論Ⅰ | 前期 | 2 | 細居 俊明 | | | | 3 |
| | | 日本経済論Ⅱ | 集中 | 2 | 細居 俊明 | | | | 4 |
| | | 経済学特殊講義Ⅰ | 後期 | 2 | 細居 俊明 | | | | 5 |
| | | 経済学特殊講義Ⅱ | 集中 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 6 |
| | | 現代産業論Ⅰ | 前期 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 7 |
| | | 現代産業論Ⅱ | 後期 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 8 |
| | 総合社会系科目 | 現代社会特殊講義Ⅰ | 集中 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 9 |
| | | 現代社会特殊講義Ⅱ | 集中 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 10 |
| | 各系共通 | 高知学 | 集中 | 2 | 細居 俊明 | | | | 11 |
| | | 社会人基礎力養成講座 | 後期 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 12 |
| | | 社会科学演習Ⅱ | 前期 | 2 | 細居 俊明 | | | | 13 |
| | | 社会科学演習Ⅲ | 集中 | 2 | | 池谷 江理子 | 高知工業高等専門学校（名誉教授） | | 14 |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 文章表現技法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | D0250 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学元特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail eriko.ikeya@gmail.com | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>授業レポートやゼミにおける発表原稿の作成、編入や就職試験時に課される小論文、就職後必要となる業務レポートや企画書作成等、文章表現は学生や社会人に必要とされるスキルです。</p> <p>授業は、授業中の実践により、基礎的な事柄から、ある程度の長さのレポート作成まで順を追って、文章表現の技法を身につけることを狙いとしています。文を書くことに苦手意識を持つ人もいますが、学びと実践の繰り返しにより力が身に付きますので、積極的にチャレンジすることを期待します。</p> |
| 授業の進め方 | <p>講義を行い、その後、学生が文章作成に取り掛かる形で授業を行います。添削・推敲を経て文章を完成させていきます。事前に準備が必要な場合もありますが、授業時に演習形式で行う作業が基本となりますので、授業への参加が大切です。</p> <p>平常は教室で行いますが、パワーポイントの実習時等にはパソコン室を使用する可能性があります。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。</p> <p>(2) 明瞭で論理的な文章の書き方を修得する。</p> <p>(3) 評論文の的確な要約、ゼミ等における発表原稿の作成を行う能力を養成する。</p> <p>(4) 出題の意図に沿ったレポートを作成する力を培う。</p> <p>(5) 課題に即した小論文を構想し、作成する能力を養成する。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自己紹介文の作成・原稿用紙の使い方、主語と述語、段落</p> <p>第3回 自己紹介文の添削と推敲、完成</p> <p>第4回 評論文の読解と要約(1) 要約の方法</p> <p>第5回 評論文の読解と要約(2) 要約のまとめ方、段落構成</p> <p>第6回 ゼミ発表 (1) テーマ設定と準備・論文検索と読解、要約</p> <p>第7回 ゼミ発表 (2) 発表原稿の作成・構成、執筆</p> <p>第8回 ゼミ発表 (3) パワーポイントの作成と留意事項、実演</p> <p>第9回 レポートの作成 (1) テーマ設定、参考文献の検索・読解</p> <p>第10回 レポートの作成 (2) 章建てとドラフトの作成</p> <p>第11回 レポート作成 (3) 本文と注、文献リストの作成</p> <p>第12回 レポートの作成 (4) 添削・推敲、完成原稿の作成</p> <p>第13回 小論文の作成 (1) テーマ設定、行程表、文献リストアップ、読解</p> <p>第14回 小論文の作成 (2) 構成と下書き、完成原稿へ向けて</p> <p>第15回 総まとめ</p> <p>ほぼ以上のように考えていますが、受講生の希望や日程、進捗等により、内容や日程を変更することがあります。</p> |
| 履修上の注意 | 授業時に文章表現の演習を行いますので、出席することが大切です。 |
| 教科書 | プリントを用意します。 |
| 参考書 | 適宜紹介します。国語辞書を引けるようにして下さい。 |
| 成績評価方法 | 作成した自己紹介文、ゼミ発表原稿、レポート等の作品(45%)と授業への学生の取り組み(10%)、定期試験成績(45%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 国際経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0498 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代世界経済が抱える問題に対する理解を深める |
| 授業の進め方 | 文献を読み進めるスタイルで進めることを基本に、参加者とも相談していきます。 野口悠紀雄『世界経済入門』を候補に考えていますが、以下の文献も候補です。 鈴木宣弘『食の戦争 - 米国の罠に落ちる日本 - 』 浜矩子『EU消滅』 進藤栄一『ブレグジット、トランプ・ショック次は?』 |
| 達成目標 | 現代世界経済が抱える問題を知る 世界経済が抱える問題と日本との関係を考える 世界経済問題を理解するために基本知識を得る |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 取り上げた文献の内容を正確に把握しながら、検討していきます。 |
| 履修上の注意 | 授業への積極的な姿勢が求められます。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢とそこでの理解を基本に、必要に応じて求めるレポートを加味して評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 日本経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0503 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本経済は低迷を続けています。異次元金融緩和をはじめとするアベノミクス政策も成果が上がっているとは言えない状況です。日本経済がどのような現状にあり、どのような問題を抱えているのか、そしてそれをどう克服していく必要があるのかを考えていきます。 |
| 授業の進め方 | テキストを利用し、輪読しながら、テキストの理解を深め、問題を皆で考えていきます。進め方は参加者の状況を見ながら、適宜変更していくこととします。 |
| 達成目標 | 日本経済への関心を高める。 日本経済の現状を知る。 日本経済の問題を理解する手掛かりを得る。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | テキストに沿って、概ね次のような問題を取り上げて進めます。 1 回、GDPによって日本経済を知る 2 - 3 回、日本の製造業の強みと弱み 4 回、格差は拡大しているか 5 - 7 回 異次元金融緩和の効果 8 - 9 回、人口減少と高齢化の影響 10 - 12 回 人口高齢化と社会保障の将来 13 - 14 回 財政は大丈夫か 15 回 技術革新は未来を拓くか |
| 履修上の注意 | 出席と発言を重視します |
| 教科書 | 野口悠紀雄 『日本経済入門』講談社現代新書、800円（税別） |
| 参考書 | 適宜指示します |
| 成績評価方法 | 参加姿勢と小テストによって評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 日本経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0504 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本経済は低迷を続けています。異次元金融緩和をはじめとするアベノミクス政策も成果が上がっているとは言えない状況です。日本経済がどのような現状にあり、どのような問題を抱えているのか、そしてそれをどう克服していく必要があるのか、色々な角度からを考えていきます。 |
| 授業の進め方 | テキストを利用し、輪読しながら、テキストの理解を深め、問題を皆で考えていきます。進め方は参加者の状況を見ながら、適宜変更していくこととします。 |
| 達成目標 | 日本経済への関心を高める。 日本経済の現状を知る。 日本経済の問題を理解する手掛かりを得る。 焦点を絞って問題を検討する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | テキストに沿って、概ね次のような問題を取り上げて進めます。 バブルの時代をどう見るか 第4次産業革命と日本 人口減少への対応 金融政策・財政政策の課題 エネルギーと地球温暖化 グローバル化と日本 ただし、テキストは受講生の関心などに合わせて、変更することも考えます。 人口減、観光、第4次産業革命、貿易摩擦などのかかわりです。 |
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 藤井彰夫『日本経済入門』日経文庫、860円(税別) |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業における取組と理解を総合的に判断して評価します。 |

| | | | | | |
|-------|---------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 経済学特殊講義 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0510 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代経済を理解する上で大切なヒントを得ることを目的とします。 そのために、現代に影響力を強く持つ様々な古典のエッセンスとなる部分を読む、現代日本経済再生に関わる基本問題として観光や外国人労働者の問題を取り上げる。いずれかの方向で進めます。 |
| 授業の進め方 | 文献を読み進める形で授業をすすめます。 |
| 達成目標 | 現代経済の抱える問題への関心を高める。 問題を検討するために必要な手がかりを得る。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | |
| 履修上の注意 | 授業への積極的な参加姿勢が求められます |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢とそこでの理解を基本に、必要に応じて求めるレポートを加味して評価します。 |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 経済学特殊講義 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0512 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 元高知短期大学特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail eriko.ikeya@gmail.com | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>中小企業、地場産業と地域経済との関係を取り上げます。</p> <p>日本では経済に占める中小企業の役割が大きいことが指摘されていますが、国際的にも中堅的な企業の存在が注目を浴びています。</p> <p>講義では、地方在住者に関係の深い中小企業について、特質と発達過程、地域経済との関わり、今後の課題と政策などについて、学んでいきます。</p> |
| 授業の進め方 | <p>講義を主としますが、授業中発問を行い、学生の意見や考えを聞きながら授業を進めていきます。具体的な事例を取り上げる場合には、文書資料の他、動画・パワーポイントを使用することがあります、</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 中小企業の特質や歴史の概要を理解することができる。</p> <p>(2) 中小企業や地場産業と地域経済との関わりについて説明することができる。</p> <p>(3) 中小企業の抱えている課題と政策を理解できるようになる。</p> <p>(4) 日本及び高知県の中小企業の実態を知り、発達の背景と課題等について考察する力を養う。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、試験・レポートと評価</p> <p>第2回 中小企業とは何か</p> <p>第3回 日本経済と中小企業</p> <p>第4回 世界の中小企業</p> <p>第5回 中小企業の歴史</p> <p>第6回 地場産業の発達と地域経済</p> <p>第7回 中小工業</p> <p>第8回 中小商業</p> <p>第9回 中小企業の現代的課題</p> <p>第10回 地域の中小企業 (1)製紙業関連</p> <p>第11回 同上 (2)機械関連</p> <p>第12回 同上 (3)農水産物加工</p> <p>第13回 同上 (4)商業</p> <p>第14回 同上 (5)その他</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>ほぼ以上のように考えていますが、学生の希望、進行状況などにより多少変更される可能性があります。</p> |
| 履修上の注意 | <p>身近なテーマである。授業内容と現実がどう対応しているのか、日々の生活を送りながら回りをよく見、考えてほしい。新聞やニュースにも目配りし、現実を見極める姿勢を持ち授業に臨むことを希望する。</p> |
| 教科書 | <p>『21世紀中小企業論 第3版 - 多様性と可能性を探る -』渡辺幸男・小川正博・黒瀬道宏・向山雅夫著 有斐閣(2013年)・・・主に前半に使用する。後半はプリント配布が中心となる予定。</p> |
| 参考書 | <p>『地域経済と中小企業』関満博著、筑摩書房(1995年)、『地域ブランドと産業振興』関満博・及川孝信編、新評論(2006年)、『グローバルビジネスの隠れたチャンピオン企業』ハーマン・サイモン著、上田隆穂監訳、中央経済社(新装版 2015年)他適宜紹介する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>授業への出席と授業への参画(20%)、課題(10%)、中間テストまたはレポート(30%)、期末テストまたはレポート(30%)などから総合的に評価。</p> |

| | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 現代産業論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0723 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学元特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>日本の主要産業の歴史的推移と現状、政策的取組と課題について具体的な数値、事例等を紹介しながら検討した上、高知県における当該産業の実態と課題に関し、具体的事例に基づきながら考察を加えます。</p> <p>本講義は後期に開講される現代産業論 と連動しており、前期には第一次産業と一次産品の商品化を行う製造業中の食品加工業を取り扱い、その他の製造業及び第三次産業については後期に取り上げます。</p> |
| 授業の進め方 | <p>講義を基本としながら、適宜、発問し、時には議論しながら進めたいと考えています。ただし、実際には、受講生の意向、状態を見ながら柔軟に対応するようにします。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 日本の主要産業の発展と現代的課題の概要を把握できるようになる。</p> <p>(2) 産業が直面している中長期的課題と各産業の関わりについて理解できるようになる。</p> <p>(3) 高知県における諸産業の日本・世界における特色、長短等を把握することにより、地域の産業発達の課題を考える能力を培う。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>以下のように考えていますが、受講学生の要望や進度、社会情勢の変化等により変更する場合があります。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代産業の直面する課題 (1) 地球環境問題対応・脱炭素社会再生エネルギー対応</p> <p>第3回 現代産業の直面する課題 (2) グローバル化、AIの発達</p> <p>第4回 現代産業の直面する課題 (3) 人口構成の変化(少子高齢化)、縮小都市化</p> <p>第5回 現代の産業構造</p> <p>第6回 現代の農業</p> <p>第7回 高知の農業：一次産業と六次産業化、地域事例</p> <p>第8回 現代の林業</p> <p>第9回 高知の林業、歴史と現況、課題</p> <p>第10回 現代の漁業、高知の漁業：カツオを中心に</p> <p>第11回 現代の建設業、高知の建設業</p> <p>第12回 現代の製造業 フットルース、ロボット化</p> <p>第13回 現代の食品製造業</p> <p>第14回 高知の食品製造業 果実・水産加工業他</p> <p>第15回 前期、総まとめ</p> |
| 履修上の注意 | <p>現代産業論 とは一連の講義の前半と後半をなしている。本講義は後期に開講する現代産業論 へ続く。両方取ることが望ましいが、一方のみを受講することも可能である。</p> |
| 教科書 | <p>プリント、資料を準備する。</p> |
| 参考書 | <p>適宜、紹介する。『日本国勢図会2017/18』年版、矢野恒太記念会編、国勢社(2017年)他。</p> |
| 成績評価方法 | <p>小テストと定期テストまたはレポート(80%)、提出物(10%)、学生の取り組み状況(10%)などから総合的に評価する。</p> |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 現代産業論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0724 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 元高知短期大学特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail eriko.ikeya@gmail.com | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本の主要産業の歴史的推移と現状、政策的取組と課題について具体的な数値、事例等を紹介しながら検討した上、高知県における当該産業の実態と課題に関し、具体的事例に基づきながら考察を加えます。 本講義は前期に開講された現代産業論 と連動しています。前期には第一次産業と製造業（日本）迄を取り扱いましたので、後期には高知県の製造業・建設業と第三次産業について取り上げます。 |
| 授業の進め方 | 講義を基本としながら、適宜、発問し、時には議論しながら進めたいと考えています。実際には、受講生の意向、状態を見ながら柔軟に対応するようにします |
| 達成目標 | (1) 日本の主要産業の発展と現代的課題の概要を把握できるようになる。 (2) 産業が直面している中長期的課題と各産業の関わりについて理解できるようになる。 (3) 高知県における諸産業の日本・世界における特色、長短等を把握することにより、地域の産業発達を担い、課題を考える能力を培う。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 以下のように考えていますが、受講学生の要望や進度、社会情勢の変化等により変更する場合があります。 第1回 オリエンテーション 日本の製造業の特質概観 第2回 高知県製造業の概要 第3回 高知県の食料品製造業－農産物加工：果実加工・酒造業－ 第4回 高知県の食料品製造業－水産物加工：鯉節・かまぼこ・薫焼タタキ－ 第5回 高知県の機械・金属工業－歴史的背景－ 第6回 高知県の機械・金属工業－農林漁業を支える－ 第7回 高知県の機械・金属工業－建設・製造業を支える－ 第8回 高知県の製紙業 第9回 高知県製造業の立地及び地域的特質 第10回 現代の建設業 第11回 高知県の建設業 第12回 現代の第三次産業 第13回 高知県の第三次産業 (1) 第14回 高知県の第三次産業 (2) 第15回 総まとめ |
| 履修上の注意 | 現代産業論 と は一連の講義の前半と後半をなしている。本講義は現代産業論 を受けて行われる。両方取ることが望ましいが、一方のみを受講することも可能である。 |
| 教科書 | プリントを配布する。 |
| 参考書 | 『「ごっくん馬路村」の村おこし』大蔵昌彦著 日本経済新聞出版社（1998年）、「紙漉きのまち－伊野－」池谷江理子著（『歴史地域の変容』山崎謹哉他編著所収 18-34頁） 大明堂（2000年）、『地域産業構造の分析』西沢弘順著 文理閣（1984年）他、適宜授業中に紹介する。 |
| 成績評価方法 | 小テスト及び定期テストまたはレポート（80%）、提出物（10%）、学生の取り組み状況（10%）などから総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 現代社会特殊講義 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0980 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 元高知短期大学特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail eriko.ikeya@gmail.com | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 働き方（働かせ方）が深刻な社会問題となっています。本講義では大学を卒業する若者が社会に出て仕事をするとときにぶつかる問題に焦点をあて、考えていきます。 |
| 授業の進め方 | この問題に焦点をあてている書籍を皆で読み解きながら、率直に意見を出し合う形で進めたいと考えています。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 現代の労働環境の実態について理解を深める。 (2) 労働環境の問題点とその背景について理解を深める。 (3) 労働現場の問題を解決していく方法と手段を考える力を養う。 (4) 互いに意見を交換する中で、自分の考えを深めていく力を養う。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>第1回 オリエンテーション 本の決定、授業の進め方</p> <p>第2回 若者の労働をめぐる</p> <p>第3回 若者の労働の状況</p> <p>第4回 背景と要因</p> <p>第5回 状況のもたらす社会的影響 (1) 少子高齢化の加速</p> <p>第6回 同上 (2) 階層分化</p> <p>第7回 状況変革へのチャレンジ (1) 就業支援政策</p> <p>第8回 同上 (2) 学校と労働現場</p> <p>第9回 同上 (3) 若者たちの主体性</p> <p>第10回 教室と職場、教育と就業 (1) 1960-80年代</p> <p>第11回 同上 (2) 1990年代後半以降</p> <p>第12回 同上 (3) 著者の提案ー職業教育の重視</p> <p>第13回 若者にとって仕事とは？ (1) 若者が仕事を語る</p> <p>第14回 同上 (2) 労働者意識の検討</p> <p>第15回 全体の総括 各自発表</p> <p>概ね上記のように考えていますが、本の選定、進め方など受講生の希望を聞きながら決定していきます。その過程で上記とは異なってくる可能性もあります。</p> |
| 履修上の注意 | 教科書を入手し、読み、授業に出席し、意見を発言するよう希望します。 |
| 教科書 | 『若者が働くときー「使い捨てられ」も「燃えつき」もせずー』熊沢誠著、ミネルヴァ書房（2006年）（予定） |
| 参考書 | 『雇用身分社会』森岡孝二著、岩波書店（2015年）、『若年非正規雇用の社会学ー階層・ジェンダー・グローバル化ー』太郎丸博著、大阪大学出版会（2009年）等。適宜授業中に紹介します。 |
| 成績評価方法 | 授業の出席と意見交換（文書含む）（30%）、中間テストまたは小レポート（30%）、期末テストまたはレポート（40%）などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|----------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 現代社会特殊講義 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0990 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学元特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 授業では、ワーク・ライフ・バランスとジェンダーについて考えます。日本では、長時間労働等の問題が深刻化し、働き方改革（働かせ方改革）が求められています。この問題は「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）を求める動きの一環ともいえます。仕事と生活の両立が困難な現状を踏まえ、両立を不可能としている原因を探り、両立を可能にする条件を考えていきたいと思えます。講義では「ワーク・ライフ・バランス」の意味と背景、実現に向けての課題、海外等での取り組み等を取り上げ、ジェンダーとの関係に留意しながら検討を進めていきます。 |
| 授業の進め方 | 講義を中心としながら、資料の読み合わせや発表、討論等を盛り込み進めていきます。なお、受講生の状況や希望に応じ、進め方は柔軟に対応します。 |
| 達成目標 | (1) 「ワーク・ライフ・バランス」の意味内容、背景を理解できるようになる。 (2) 「ワーク・ライフ・バランス」を実現する上での課題と解決方法を理解できるようになる。 (3) 「ワーク・ライフ・バランス」実現を阻むジェンダー問題を理解できるようになる。 (4) 世界の「ワーク・ライフ・バランス」への取り組みを知り、多様な解決方法を理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | (変更になる可能性があります) 第1回 オリエンテーション 第2回 ワーク・ライフ・バランスとは？ 第3回 ワーク・ライフ・バランスが求められる背景 第4回 ワーク・ライフ・バランスと職場 第5回 ワーク・ライフ・バランスと家庭・家族・ジェンダー 第6回 ワーク・ライフ・バランスと地域 第7回 スウェーデンにおけるワーク・ライフ・バランス 第8回 オランダにおけるワーク・ライフ・バランス 第9回 アメリカにおけるワーク・ライフ・バランス 第10回 ドイツにおけるワーク・ライフ・バランス 第11回 イギリスにおけるワーク・ライフ・バランス 第12回 国内先進地域におけるワーク・ライフ・バランスへの取り組み 第13回 ワーク・ライフ・バランス実現に向けた課題 第14回 ワーク・ライフ・バランス政策の課題と今後の方向 第15回 全体の総括 概ね、以上のように考えていますが、受講生の希望や進行状況により順序や時間等を変更する可能性があります。 |
| 履修上の注意 | 授業に出席し、ワークシートへの記入や質問、討論に積極的に参加することを期待します。新聞等のニュースなどにも取り上げられる話題です。日頃から注意して見聞きし、出来れば、自分なりの考えを持って授業に出席するようにして下さい。 |
| 教科書 | プリントを配布します。 |
| 参考書 | 『国際比較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える』武石恵美子著、ミネルヴァ書房(2012)、『ワーク・ライフ・バランスと経営学：男女共同参画に向けた人間的な働き方改革』平沢克彦・中村艶子編著、ミネルヴァ書房(2017)、『働くこととジェンダー』倉地克直・沢山美果子編著、世界思想社(2008)等、その他、適宜授業中に推薦します。 |
| 成績評価方法 | 毎授業中に推薦するワークシート(15点)、小テスト(20%)、期末試験あるいはレポート(50%)、講義への参加姿勢(発表・討論等)(15%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 高知学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | H0902 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 地域活性化の積極的な取り組みや、高知で活動してきた人たちを取り上げ、取り組みや活動の意義を探るとともに、高知で働くこと、さらに働きながら学ぶことの意味を考えていきます。 |
| 授業の進め方 | なかなか見ることのできない職場、現場に行くこと、経験者から話を聞くことを中心におきます。受講生の都合や訪問相手との関係で、スケジュールが流動的になることは了解しておいてください。 取り上げる職場や人は、地域再生へのとりくみとして注目すべきところや人、高知短期大学の卒業生の職場や人を検討しています。 |
| 達成目標 | 地域を支え、活性化する取り組みに触れ、その意味を考える 働く現場の苦労や喜びに触れ、その意味を考える 働きながら学ぶことの苦労や喜びに触れ、その意味を考える |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 授業計画はその都度、掲示等で示します。 以下の取り組みを取り上げることを検討しています。 土佐町の有機栽培ブドウを使ったワイナリーの取り組み 高知市のデイサービスを立ち上げて成果を上げている卒業生 いの町のNPO法人「わのわ会」(障がい者、子ども、高齢者、住民の相互支援) 佐川町の「池川木材」「司牡丹」 高知城博物館 オーテピア など |
| 履修上の注意 | 授業への積極的な参加の姿勢が求められます |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 参加の姿勢とレポートによって総合的に評価します |

| | | | | | |
|-------|------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 社会人基礎力養成講座 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | H1011 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 元高知短期大学特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 短大卒業後等に社会に出て活動するため基礎的な素養とスキルを身につける講座です。履歴書の書き方、面接の留意点などを学ぶとともに、人生100年時代に見合った長期的なライフプランの作成、ジェンダーを超えて誰もが家事、育児、介護を行う時代のワークライフバランス実現可能な労働環境などについても考えていきます。 |
| 授業の進め方 | 講義に加え、演習、模擬体験、読み合わせなどを織り交ぜ授業を行います。質疑応答、議論などの機会もありますが、参加者数や各自の状況に応じ柔軟に取り組みます。 |
| 達成目標 | (1) 就職、転職、再就職などに際し必要な知識と文書作成、面接等のスキルが身に付く。 (2) 人生100年時代を生きるための生涯設計、キャリアプランを考える基礎力が身に付く。 (3) 誰もがケアをし、される社会に見合うワークライフバランスと労働環境、キャリア形成について考え、実践する力を身につける。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 30, 50年後の自分・社会と自分年表 第3回 ライフプランとキャリアプラン 第4回 仕事とは何か、仕事を見つけるにはどうしたらよいのか 第5回 業界研究 第6回 求職活動(含転職)の実際・ワクワクとハローワーク、ネット等 第7回 履歴書の作成と添削 第8回 体験者の話を聞く 第9回 職務経歴書・就職活動実行計画の作成 第10回 面接試験の目的と対策 第11回 模擬面接と講評、改善方策の検討 第12回 労働環境をめぐる今日的課題 ブラック企業とデーセントワーク 第13回 同上 ワークライフバランスと職場環境 第14回 同上 現行労働法規と今後の課題 第15回 生き方、働き方と仕事(総まとめ) ほぼ以上のように考えていますが、学生の希望等により、順序の変更などの可能性があります。 |
| 履修上の注意 | この授業は、よりよい職業的自立のため必要な知識とスキルを得ることを目的としています。 |
| 教科書 | プリントを配布します。テーマに合わせ輪読を行う予定ですが、内容は受講生と相談し、決定します。 |
| 参考書 | 『キャリアの在りかー時代を生き抜く「じぶん」を創る』星野宏著、ギャラクシーブックス(2017年)、『若者のキャリア形成を考える』中里弘穂著、晃洋書房(2013年)、『若者が働くときー「使い捨てられ」も「燃えつき」もせずー』熊沢誠著、ミネルヴァ書房(2006年)他、授業中に適宜、紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験またはレポート(50%)、演習への参加・参画(20%)、課題作成と提出(20%)、討論・議論等(10%)などに基づき総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|
| 科目名 | 社会科学演習 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | H1022 | 担当教員 | 細居俊明 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業は大学での学び、特に社会科学の学びにとって必要な読み、書き、話す能力を高めることを目的に開講する演習形式の授業です。 授業内容、受講申請方法については最初のゼミで補足的に説明します。 |
| 授業の進め方 | 在学生全員の受講を想定し、少人数の演習形式で進めます。 開講時間なども受講生にあわせて調整することもあります。 |
| 達成目標 | 文献をしっかり読み取る力を向上させる。 まとめたものを文章化する力を向上させる。 意見を発表し、意見を交流する力を向上させる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 現代社会を考えるために役立つ文献を取り上げ、 1つひとつの文献について以下の作業のいくつかを進めていく。 文献を読みこなす それについての意見や感想をまとめる 文献の内容とそれに対する意見感想を発表する(小論文作成) 文献の検討結果をレジュメにする 文献の検討結果を文章化する 取り上げられているテーマでの意見交換を行う |
| 履修上の注意 | できるかぎり、すべての学生が受講することを推奨します。授業内容、受講申請方法については相談しながら進めます。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 演習での作業や参加姿勢と小テストないし小論文によって総合評価します。 |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|--------|----|-------------|
| 科目名 | 社会科学演習 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | H1030 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学元特任教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail eriko.ikeya@gmail.com | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業は大学での学び、特に社会科学の学びにとって必要な読み、書き、話す能力を高めることを目的に開講する演習形式の授業です。 授業内容、受講申請方法については最初のゼミで補足的に説明します。 |
| 授業の進め方 | 在学生全員の受講を想定し、少人数の演習形式で進めます。 開講時間なども受講生にあわせて調整することもあります。 |
| 達成目標 | 文献をしっかり読み取る力を向上させる。 まとめたものを文章化する力を向上させる。 意見を発表し、意見を交流する力を向上させる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | (変更の可能性あります) 現代社会を考えるために役立つ文献を取り上げ、 1つひとつの文献について以下の作業のいくつかを進めていく。 文献を読みこなす それについての意見や感想をまとめる 文献の内容とそれに対する意見感想を発表する(小論文作成) 文献の検討結果をレジュメにする 文献の検討結果を文章化する 取り上げられているテーマでの意見交換を行う |
| 履修上の注意 | できるかぎり、すべての学生が受講することを推奨します。授業内容、受講申請方法については相談しながら進めます。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 演習での作業や参加姿勢と小テストないし小論文によって総合評価します。 |